

■中島

■0203

①「幸福なる者」

巡礼者

蛇男

体がバラバラにされる

②「ポケットの中には糸屑とナイフしか入っていない」

孤独な老人

誰もいない 何もない

杖で徘徊している

どこへ行くのか 歩くのが分からない

帰りたくても帰れない

紙が落ちている

③「白痴の白日夢」

頬づえをつく男

右麻痺

車椅子に繋がれたベルト

立とうとして立てない

微笑

④「草叢の腐った林檎」

裸の男

聴衆に晒され何もすることが出来 ない

草叢の中で、彼は次第に諦め体を泥や草で汚しながら死んでいくのだろう

⑤「長い壁 / 瞑想の没我」

壁際を歩く

目の前に壁がある

壁の縦の線を見つめている

扉の前で立ち止まっている私

□0212

①頬杖をつく男 / 椅子に座る男

・白痴 ・靴下 ・チョコレートを顔につけている

②裸の男

・白いパンツ ・土 ・草むら ・遺棄 ・腐った林檎

③ベッド上の女性 / 病床

・床づれ ・哺乳瓶 ・独語 ・ビニール紐 ・背中の子ちゃん

④蛇男 / 礼拝

・爆弾での死

⑤・孤独の老人 / 男

・杖で紙屑を擦る(引き摺る) ・他者への暗黙(無言)の信号 ・気付いて欲しい ・引っ掻き傷

・黒い帽子 顔を見せない

□0211

『夜は心を洗う』または『Why?』

薄れゆく軽さ / 弔いに降る雪

①頬杖をつく男 / 椅子に座る男

白痴

・靴下・チョコレートを顔につけている

②裸の男

・白パンツ・土・草むら・遺棄・腐った林檎

③ベッド上の女性 / 病床

・病床・床につく・臨床・床づれ・哺乳瓶・独語・ビニール紐・背中の赤ちゃん

④蛇男

・礼拝 巡礼・背中の赤ちゃん

⑤杖で紙屑を擦る(引き摺る)男

・他者への暗黙(無言)の信号 合図・気付いて欲しい ・引っ掻き傷・孤独の老人(男)

・全体の登場人物 / 自分の分身 代弁者・黒い帽子 顔を見せない

・日常の感覚を保って・エアコンの音を聞くこと・中に入らないこと 壁をなくすこと

・動き続ける 静止の中で どう動くのか

身を投じること 捧げること

【ハツさんの言葉 / 独語】

「誰か」「もしもし」「なあに」「落っこちちゃうよ」「33号棟の・・・」

「どちらの方ですか？」

「足元に哺乳瓶があると思うんですけど、ミルクを入れてくれませんか。赤ちゃんにあげないといけないので」

「背中の赤ちゃんはどうなりましたか」

「1万円を」「南無阿弥陀仏」「箆箭の引き出しに」

【武さんの言葉】

「もういいよ」「散歩」「小便」

『夜は心を洗う』

夜は心を洗う。

知てのとおりもうすぐここに、

額に沿って魂の列が現れる、
跳ぼうとする者や、まるで鎖かけられたような者たちが。

ある者は海のページに
人生のしるしを残し、点を打ちこむ。
まれでどこかのカモメが姿を見せる。

■原田

1 年老いたのだ。

魯迅『希望』より

要約 心はことのほか寂しい、だが平安だ。
愛憎無く、哀楽無く、色も音も無い。
たぶんに年老いたのだ。そして魂も年老いたに違いない。
不明不暗の虚妄に生を偷むのなら、身外の青春にもとめるであろう。
身外の青春が消えてしまえば、身中の遅暮もしぼんでしまうから。
わが遅暮を投げ打ち空虚の中の暗夜に肉薄するすかない。
だが暗夜はいったいどこにあるのだろうか？
私の前にはついに真の暗夜さえないのだ。

2 蝶々

蝶は気ままにひらひら舞い飛んでいるかに見えるが、蝶にしてみれば一つの道を懸命に飛んでいるに違いない。蝶のように飛んでみたい。

3 幽閉

井伏鱒二『山椒魚』より、またそれに関連して。

悲しみ。

不幸にその心をかきむしられる者のみが、自分自身がブリキの切り屑だなどと考えてみる。
たしかに彼等は深くふところ手をして物思いに耽ったり、手ににじんだ汗をチョッキの胴で拭ったりして、
彼等ほど各々好みのままの格好をしがちなものは無いのである。

『たよりなき風雲に身をせめ、花鳥に情を労して、暫く生涯のはかり事とさえなれば、終に無能無才にしてこの一筋につながる。』芭蕉

幽閉の中に三つのモチーフ

壁、足萎え、洗濯

4 海峡

岬にて海峡を目の当たりにして、飛び散る波しぶき、風に舞う鷗の間で舞っていたい。

バックには津軽海峡冬景色か

縄跳び

5 ひまわり

ソフィアローレンの「ひまわり」の冒頭ひまわり畑のシーンより

■八重樫

眠れない眠り

歩いている 歩いていた／to right to left

壁1 壁隅の人

壁2 トーテンポール／星に願いを

壁3 自制／I'm OK. I am safe.

足摺 なんでもない

ふるえながら唄を唄い続ける女／アルカイックの唄

靴置 出発／これは私じゃない／ここ ここ ここがいのよ

夕日の子供たち

壁1 壁隅の人

壁2 祈りの唄

壁3 自制

足摺 なんでもない

震えながら歌を歌い続ける

歩行右へ左へ

眠れない夜

■今井

- ・清らかなるべくして
- ・AM2:30 帰り道
- ・カフェ「マンハッタン」八王子
- ・夏のラララ
- ・ひだまり
- ・不変
- ・誰かの腕

- ・雑巾がけする女
錆び付いた日常に推進力を呼びおこす
- ・鉄柱と遊ぶ
ダラダラと
- ・布の匂い
- ・足を擦る
- ・ぐるぐる歩き回る